

僕は、この調布市立第六中学校に入学して今年で三年目を迎えました。一年生の後期から二年間、生徒会書記、会長と務める中で、この第六中学校は、本当に良い学校だと感じています。僕が思うこの六中の一番良いところは、「他学年との強い縦のつながり」と先生方、保護者そして地域の方々も含めた「六中の一体感」です。

二年前の入学当初は、まだ新型コロナウイルスの影響が残り、他者と距離をとることが求められ、他学年と関わることができたのは、委員会や部活動くらいでした。そこで生徒会が中心となり、「学年を超えた関わり」や「地域の方々との関わり」を増やしていく活動を企画運営してきました。

その活動の中でも僕が一番印象に残っている活動は、生徒会主催の「六中じゃんけん大会」です。各クラスの代表が集まって体育館で行われた決勝戦。その戦いを見守る人たちが、全身で喜んだり悔しがったりしている姿を見て「学級、学年を超えた、この六中の一体感がとても良いな」と思いました。

今年度、五十周年記念のコースターづくりのために木の伐採が行われました。都市の森林を守る活動をされている湯口さんにも来ていただき、朝からたくさん生徒や先生がその伐採に立ち会いました。木の周りのスペースや道具の数以上に人が集まったため、「これ使う？」や「気を付けてー！」など、その場にいる人同士が、譲り合ったり、助け合ったり自然なコミュニケーションがそこでは行われていました。こういうところでも「六中の一体感」を感じることができます。

また、昨年度立ち上げた「グリーンハロープロジェクト」は、国領駅から六中周辺のごみを拾いながら地域の方々や朝のあいさつをするという活動です。この活動には地域の方々も協力、参加してくださっています。最初こそ生徒の参加人数が少なかったものの、回数を重ねるごとに参加人数が増えていき、今では一年生から三年生までたくさんの方が参加する活動になっています。この活動を通して、地域の方々との交流も深まり、六中周辺の雰囲気明るくすることにも貢献できているのではないかと考えています。

これまでこの六中を巣立っていかれた先輩方が、地域の方々と共に50年間にわたって築き上げられた伝統に、この五十周年という節目に立ち会う僕たちが、さらに深めた「六中の一体感」を次の五十年、百周年に向けて引き継いでいきたいと思います。

令和六年十月四日

生徒代表 第四十九期 生徒会長